

大野小学校 ふれあいルーム

大野小学校では、昨年6月に校内の余裕教室を利用して「ふれあいルーム」を開設しました。教育の場「学校」を拠点として、地域の交流を図ろうと。この試みは、保護者や校区内に住む人たちが構成されている「スクールボランティア」によって動き始めました。児童とボランティアのふれあいの場面を通して、この活動をご紹介します。

大野小学校・ふれあいルーム開設の目的は

❖ 学校、家庭、地域が連携を図ることによって、地域ぐるみで児童の健全育成に取り組む

❖ 児童が保護者や地域の人と触れ合うことによって、豊かな体験や心を育む機会を得る

❖ 余裕教室を有効に利用することで、開かれた学校作りを推進し、学校を地域における子育ての一つの拠点とする

❖ 子育てに悩みを持つ親の相談の場として活用する

❖ 学校の安全管理にも協力する

スクールボランティアの主な活動内容は

❖ 毎週月曜日と木曜日の9時から12時まで。休み時間には、児童の話し相手や遊び相手になります

❖ 参観日などの託児をします

❖ 低学年が授業の一環で「町の探検」をした際には、街角などに立って、迷子が出ないようにサポートをします。

廃品の牛乳パックを組み合わせて丈夫なイスの出来上がり

24個の牛乳パックを六角形になるように組み合わせます。かわいい柄の布カバーを付けると立派なイスの出来上がりです。子どもたちは、これでイス取りゲームをしたり、高く積み上げたりして、自由に遊んでいます。



休み時間に、ふれあいルームに用意されたお手玉やあや取りを楽しむ子どもたち。

あや取りに興味を持った児童が、「さっきの続きを教えて」と、ボランティアを訪ねて部屋に飛び込んで来ることもあります。



児童に人気のペットボトル・ボウリング

新聞紙を丸めたボールと、空になった牛乳パックやペットボトルを並べてボウリングゲームも楽しめます。



スクールボランティアは24人で活動を開始しました



スクールボランティアの代表者 松永万次郎さん

「学校の協力を得て、児童と地域の人、また、地域の人が交流できる場所を確保できました。保護者や地域に呼び掛けた結果、24人のボランティアが集まり活動を始めました。現在は約30人が、都合のつく時間に子どもたちの遊び相手や授業、その他のお手伝いをしています。

昨年末に、畳を八枚敷いて家庭の居間のような親しみのある空間を設けることができました。子どもたちにも好評です。

スクールボランティアの活動は、まだ実験的な段階ですが、今後は独り暮らしの高齢者も参加できるように、内容を充実させていきたいと思っています。」



部屋の壁紙、カーテン、畳、それに湯茶セットなども地域の方のご協力によるものです。また、クリスマス前には子どもたちと一緒に壁掛けツリー（写真左）の飾り付けをしました。スクールボランティアの一人・森田英子さんによると、ふれあいルームでは、昨年12月に保護者や地域の人向けに「おたより」を発行しました。その中で、子どもたちが使うクレヨンが足りないことに触れると、早速たくさんクレヨンが集まったそうです。森田さんは「その時は、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました」と笑顔で話してくれました。



図書室では、子どもたちに人気のある本ほど表紙などが傷んでいます。それに気付いたボランティアのお母さんたちは、本の修繕を始めました。これまでに、約百冊がきれいに仕上がりました。左の写真は、修繕に必要なヘラやテープなど七つ道具をそろえて、ふれあいルームで作業をしているボランティア。休み時間には、近くに寄って来て「本って直せるとね？」と驚く児童もいます。また、「ありがとう」や「この本の修繕が終わったら、一番に読ませてね」という一言が励みになるそうです。

傷んだ本の表紙も、お母さんたちの手にかかるると新品同様